

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

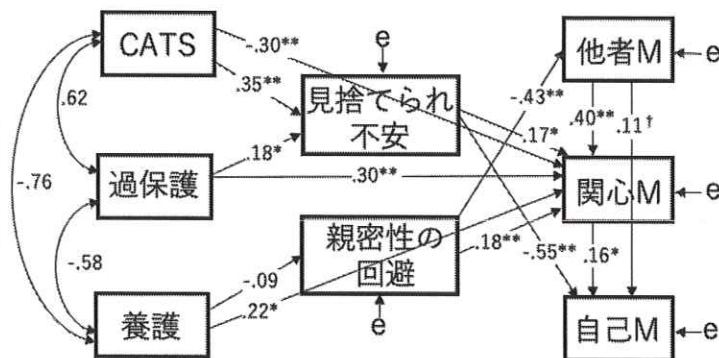
申請者 (ふりがな)	田中 穂乃香 (たなか ほのか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	一般社団法人日本カウンセリング学会第 54 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	田中穂乃香・桂川泰典
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	養育と愛着がメンタライジングに及ぼす影響プロセスの検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><問題と目的></p> <p>メンタライジングとは、自分と他者の行動の背後にある心理状態(考え、感情、欲求など)に注意を向け、それを認識することである(Allen, 2013 上地・神谷訳 2017)。メンタライジングは養育者との愛着を基盤に発達するが、虐待などの養育は愛着不安や回避を高め、メンタライジングの発達を妨げると考えられる。一方、メンタライジングを尺度を用いて測定し、親の養育、その子どもの愛着、およびメンタライジングの関連を実証的に検討している研究は少ない。そこで、本研究では親の養育が子どもの愛着を媒介し、メンタライジングに影響を及ぼすプロセスを検討する。</p> <p><方法></p> <p>調査対象者 首都圏に在学する大学生 190 名(男性 65 名, 女性 125 名, 平均年齢 20.85 歳, $SD=1.63$)</p> <p>調査材料 (a)日本語版虐待的養育環境尺度(Child Abuse and Trauma Scale: Sanders & Giolas, 1991; Sanders & Becker-Lausen, 1995 田辺訳 1996, 2005)(以下, CATS)「性的虐待」因子を除く 26 項目について、本研究では 16 歳までの親(もしくは主な養育者)の養育を想起して回答を求めた。(b)日本語版養育態度尺度(Parental Bonding Instrument: Paker, G., Tupling, H., & Brown, L. B, 1979 小林訳 1991)「養護」「過保護」の 2 因子。(c)一般他者版成人愛着スタイル尺度(中尾・加藤, 2004)「見捨てられ不安」「親密性の回避」の 2 因子。(d)日本語版メンタライゼーション尺度(The Mentalization Scale: Dimitrijević, Hanak, Dimitrijević, & Marjanović, 2018 松葉他 訳 2019)「他者に対するメンタライジング(以下, 他者 M)」「自己に対するメンタライジング(以下, 自己 M)」「メンタライゼーションへの関心(以下, 関心 M)」の 3 因子。</p> <p>倫理的配慮 本研究は、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理委員会」の審査・承認を得て実施された(承認番号:2020-111)。</p> <p><結果></p> <p>養育が愛着を介してメンタライジングに与える影響を検討するため、パス解析を行った。最終モデルを Figure1 に示す($\chi^2(12) = 21.39$, GFI = .973, AGFI = .919, CFI = .980, RMSEA = .064)。その結果、CATS と過保護は見捨てられ不安に正のパスを示したが、養護から愛着に有意なパスは示されず、直接メンタライジングに影響が見られた。養育と愛着はそれぞれ関心 M にパスが示され、CATS のみ</p>	

負のパスであった。見捨てられ不安は自己 M に、親密性の回避は他者 M に負のパスが示された。他者 M から関心 M、関心 M から自己 M へ正のパスが示され、さらに他者 M から自己 M へ直接正のパスが示された。

<考察>

虐待はメンタライジングの発達を妨げることが明らかになっており(Allen & Fonagy, 2006 池田訳 2011), 被虐待経験は自他に関係なく心理状態への関心を低下させる, または心理状態について考えること自体を回避させるため, CATS から関心 M に負のパスが示されたと考えられる。養護的な養育から愛着への有意なパスが示されなかったことから, 養護的な養育よりも過保護と虐待を含む不適切な養育の方が, 愛着を介してメンタライジングに及ぼす影響が大きいことが明らかになった。

見捨てられ不安は自己観に, 親密性の回避は他者観に対応している(中尾・加藤, 2004)ことを踏まえ, 見捨てられ不安が高まると自己への内省力が低下し, 親密性の回避が高まると他者の心理状態の推察力が低下すると考えられる。そのため, 治療において, 低下しているメンタライジング能力への介入は, 見捨てられ不安または親密性の回避の高まっている愛着システムに着目することが有効であるといえる。また, 自己に対するメンタライジングを高めることが難しい場合, 他者へのメンタライジングから高める介入を行うことで, 間接的に自己に対してもメンタライジングが高まる可能性が考えられる。他者 M から自己 M にパスが見られたことから, 心が“外側から内側へ”と発達するという Vygotsky(1978)の見解が支持された。関心 M が媒介していることについて, 間心理的発達と心理内的発達の過程には, 自己や他者の心理状態について関心を持つ心的行為のプロセスがメンタライジングの発達に含まれることが示唆された。



※無断転載禁止